

小・中学校生徒指導連絡協議会

6月21日(金)、「第1回 滑川市小・中学校生徒指導連絡協議会」を行いました。各校の生徒指導主事に年3回集まっていただき、研修・情報交換を行っています。

第1回目は、東部教育事務所 主任生活指導主事 尾島賢治 先生を講師にお迎えし、「生徒指導提要に基づいた登校しぶり・不登校初期段階の対応」についてご講話いただきました。



(1) 登校しぶり・不登校対応の支援のゴールについて

支援のゴールは、**社会的自立**です。
(『生徒指導提要』より)

「**待つことが大事**ですが、学びの場(教育支援センター等)の情報提供も考えられます。」

「学校には学びがたくさん転がっています。支援のゴールは登校ではありませんが、『来たくなかったら学校に来なくていいよ』というスタンスではありません。ただ待つのではなく、**状態・必要な支援を見極め、働きかけることも大切**です。」



指導講話 不登校初期段階の対応について考える先生方

(2) 不登校に関する生徒指導の重層的支援構造について

不登校対策における課題早期発見対応

- ①情報の集約とアセスメント
- ②学年、学級での取組
- ③保護者への支援

- ①「**休みたい**」と言いだめたなどの段階でアセスメントと、教職員・SC、SSW、保護者との**連携による支援を開始**します。
- ③保護者の元気が、児童生徒の心理的安定につながります。保護者を**放置しない**ことが大切です。(尾島先生)

不登校対策としての課題未然防止教育

- ①SOSを出すことの大切さ
- ②教職員の相談力向上のための取組



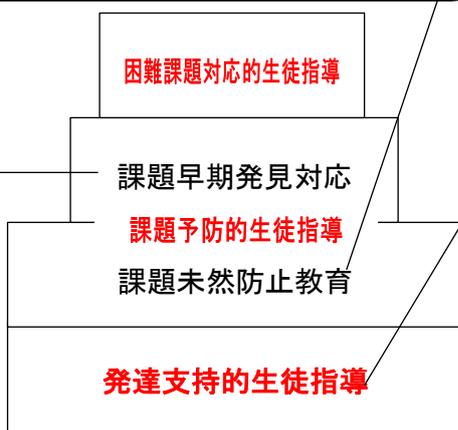
- ①例えば子供に左のような図を示し「誰に相談できるだろう」と問う等、**SOSの出し方を具体的に考える機会を設ける**とよいです。(尾島先生)

不登校対策としての発達支持的生徒指導

- ①魅力ある学校づくり、学級づくり
- ②学習状況等に応じた指導と配慮
- ③複雑な背景を想定した手立て

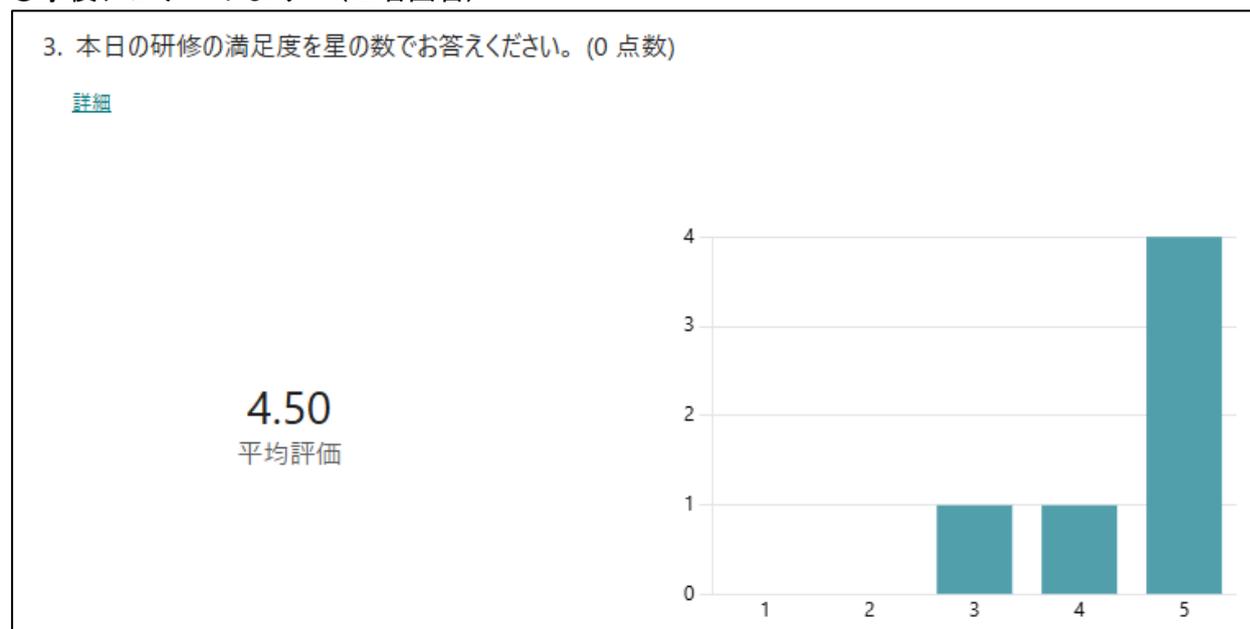
ここが重要
(尾島先生)

- ①教師の丁寧な指名の仕方ひとつで、「自分という存在が大切にされている」という**児童生徒の安心**につながります。
- ②「どの児童生徒も分かる授業」「どの児童生徒にとっても面白い授業」が理想ですが、仮に勉強に苦手意識をもっている子がいる場合、日々の授業の中で1時間でも、ひと時でも、「**分かった**」「**楽しい**」と思える瞬間があるとよいです。(尾島先生)



【生徒指導の重層的支援構造 (『生徒指導提要』P19より)】

○事後アンケートより（6名回答）



受講者の感想

不登校への対応、いじめの認知等、難しいことがたくさんありますが、少し参考になりました。

他校の生徒指導主事と意見交換することができて、とても参考になった。

いじめや不登校について、詳しく説明してくださってわかりやすかったです。

不登校の生徒が多く、きっかけや原因も多様化している中、対応が困難な事例に対するヒントをいただくことができました。ありがとうございました。

昨年学校によって認知件数に大きな差があることを、委員の方からご指摘がありました。その際にも、いじめのアンケートや認知の基準を市内で統一したらどうかという意見がありました。毎回の研修のあとに、本当はこうだったらいいのになあで終わるのではなく、具体的な話し合いに時間をとることができたら、色々な意見も聞けるのではないかと思います。いじめの報告書についても、一昨年、県と統一していただけたらありがたいと意見が出ていました。今年度変えていただけてとても助かりました。ありがとうございます。

不登校生徒に対する考え方について改めて見直すことができ、良い機会になった。また、事例を挙げてケース会議の参考にする取り組みも面白かった。